*学校の授業等で活用できる「親学習」研修*

*平成29年8月4日（金曜日）*

１．日時／場所　　平成2９年8月４日（金曜日）／大阪府教育センター

２．参　加　者　　3１人（学校教職員、行政担当者）

３．内　　　容

**（１）大阪府より「親学習ついて」**

　　　　地域教育振興課より、「親学習」の特徴や活用方法的、必要性等について説明しました。

**（２）ワークショップ①・②**

豊中市で親学習リーダーとして活動し、大阪府の家庭教育支援スーパーバイザーとしても活動いただいている方より、小・中・高等学校での児童・生徒や保護者を対象とした親学習をご紹介いただきました。

ワークショップ①として、親学習教材「接する」をもとにした、「たまごのワーク」を紹介いただき、実際の卵を使って、参加者が児童・生徒役になって体験しました。ワークショップ②では、親学習教材「親を知る」を使った親学習を体験しました。親学習を体験するだけでなく、学校で実践した際の様子、児童・生徒や保護者の感想なども紹介いただきました。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |
| ワークショップ①。はじめに、親学習のルール「時間」「参加」「守秘」「尊重」を説明します。 | 赤ちゃんほどの重さがある沐浴人形を抱くことで、赤ちゃんについてのイメージを広げます。 | たまごに顔をかき、プロフィールを考え、赤ちゃんとして接する疑似体験をします。 | 赤ちゃん（としているたまご）と接して感じたことを書き出し、グループで共有します。 |
|  |  |  |  |
| グループごとにまとめた考えを発表し、全体で共有します。 | ワークショップ②。まず、親学習教材「親を知る」を読み、感じたことを話し合います。 | ワークシートに、それぞれが考える「親に求める５つの条件」を書き込みます。 | グループで話し合い、考えをまとめていきます。 |

４．参加者の感想

・実際に授業で活用したことがあったのですが、親を知る、親について考える、将来親になる、ということを強く押しすぎて、うまくいかないところもあり、今日は少しヒントになりました。

・教職員や保護者に広めていきたいと思います。親の気持ちを考えることは、子どもたちにとって非常に難しい。それは、親ではないからです。しかし、今回のような学習を通して親の気持ちを知るきっかけとなり、自分の思い、親の思いを大切にしようとするのでは・・・

・今回、小学校高学年の授業で活用できそうだと思いました。保護者中心の生活に子どもが振り回されてしまったり、保護者の方がうまく子育てできず悩んでいるところがあります。学生のうちから親について学ぶことは、とても大事な機会になると思いました。

・高等学校家庭科の保育の分野で、今日のワークを活用したいと思います。

大阪府の親学習教材「『親』をまなぶ・『親』をつたえる」を使用したワークやその活用方法等を学ぶことで、学校の授業における「親と自分の関係」、「親となることの意味」の学習や、教職員や保護者を対象とした学びの機会としての「親学習」実施を支援するため、教職員を対象に学校の授業等で活用できる「親学習」研修を実施しました。